【注意】
下記に当てはまる場合は、マンモグラフィ検診を受けることができません。
お申込みの際には必ずご確認ください。

マンモグラフィ検診　注意事項

① 6ヵ月以内に乳房にしこりや異常な乳頭分泌物などの自覚症状のある方

・ 症状のある方は再検査になる可能性が高いため、早期に医療機関を受診していただき、適切な検査（マンモグラフィ・視触診・エコー検査・細胞診検査・組織検査など）を受けていただく事をお勧めします。

② 妊娠の可能性のある方・妊娠中の方

・ マンモグラフィの撮影には X 線(レントゲン)を使用するため、胎児に影響を与える可能性がないとは言えません。

③ 出産後２年以内の方・授乳中又は断乳直後で乳汁分泌がある方

・ 乳腺が発達するため、全体的に白く写ります。腫瘍や石灰化が隠れてしまい、正確な判定が困難になります。（マンモグラフィでは、乳腺は白く写り脂肪は黒く写ります。）

・ 乳汁等の分泌物により、撮影装置が故障する可能性があります。
（故障した場合、その後の検診が続行不可能になります。）

④ 10 年以内に乳がんの既往のある方
（10 年以内でも経過観察が終了し、主治医の許可があれば受診可）

・治療を行った医療機関で経過観察を行って下さい。

⑤ 乳腺疾患（乳腺症・線維腺腫・のう胞・微小石灰化　等）があり医療機関で治療・経過観察中の方

・ 医療機関で治療・経過観察を行って下さい

⑥ ペースメーカーや植え込み型除細動器を挿入されている方

・ 乳腺を圧迫する過程で、ペースメーカーやリード線の位置がずれたり、破損する恐れがあります。

⑦ 脳室―腹腔シャントが造設されている方

・ 乳腺を圧迫する過程で、チューブの位置がずれたり、破損する恐れがあります。

⑧ 豊胸手術（脂肪注入・ヒアルロン酸注入・シリコンバック等）をしている方　（除去後も受診不可）

・ 乳房内留置バック（内部のシリコンや生理食塩水など）を破損する可能性があります。

・ 周辺の乳腺を広げて撮影できないため、マンモグラフィ検診の判定に必要な情報が得にくくなります。

⑨ 前胸部静脈ポート留置をしている方

・ 乳腺を圧迫する過程でチューブ（カテーテル）の位置がずれたり、破損する恐れがあります。

⑩ 胸部外傷（肋骨骨折・打撲等）があり、外傷による痛みなどの症状がある方

・ 外傷による痛みなどの症状があると乳腺を広げて撮影しにくくなり、マンモグラフィ検診の判定に必要な情報が得にくくなります。

・ 症状を悪化させる恐れがあります。

⑪ 極度に背骨が湾曲している方

・ 乳房全体を挟むことができないため、マンモグラフィ検診の判定に必要な情報が得にくくなります。

⑫ 独歩不能（真っ直ぐに立っている事が出来ない方）

・マンモグラフィ撮影時は、立位で一定の体勢を維持していただく必要があります。

＊その他、インスリンポンプ・持続グルコース測定器を装着中で、当日ご自身で取り外しができない場合は健診を受けることができません。

（R6,10 月改）